

1 学校全体での取組

項 目			生徒に関わること	保護者に関わること（学校→保護者→生徒）
① いじめの未然防止			○特別の教科道德の時間を中心に全ての教育活動を通して、世の中にはいろいろな考えをもっている人がいることを理解させる。 ○学活の時間等を活用して、携帯端末やＳＮＳの利用などインターネットの危険やモラルについて指導する。 ○「命を大切にすることを育むプログラム」「くまもとの心」「つなぐ～熊本の明日へ～「心のノート」等の資料を活用して道德教育の充実を図る。 ○教科指導等を通じて正しい判断力を身に付けさせる。 ○委員会活動の時間等を利用して、進んで奉仕体験活動に取り組ませる。	○自分の物や他人の物を大切に扱うように育てる。 ○携帯電話やインターネットを使うルールづくりを行う。 ○友達の気持ちを踏みにじったり傷つけたりすることの重大さを日頃から子どもに伝える。 ○地域での様々な体験をとおして、集団の一員としての自覚や自信を育ませる。
② いじめの早期発見			○生徒が集団から離れて一人で行動している時は、声をかけて話を聞く。 ○定期的に個人面談やアンケート調査を実施したり、休み時間や放課後などを利用したりして、生徒から情報を収集する。 ○スクールカウンセラー等による相談窓口を周知する。 ○上履き・机・椅子・学用品・掲示物等にいたずらがあったら直ぐに対応し、原因を明らかにする。	○子どもとの会話をできるだけ多くする。 ○服装などの汚れや乱れに気を配る。 ○子どもの持ち物に気を配り、無くなったり、増えたりしていないか観察する。 ○悩みは何でも親に相談できるような雰囲気を、普段から作っておく。
③ いじめの早期対応	暴力を伴う場合	いじめられた側	○本人や周辺からの聞き取りを重視し、身体的・精神的な被害についての的確に把握し、迅速に初期対応をする。 ○休み時間や登下校の際も教師による見回りを行い、被害が継続しない体制を整える。 ○いじめの理由や背景を突き止め、根本的な解決を図る。	○わが子を守り抜く姿勢を見せ、子どもの話に耳を傾け、事実や心情を聞くようにする。 ○いじめの問題解決に向けた学校の方針への理解を求め協力してもらう。
		いじめた側	○いじめは「絶対に許さない」という毅然とした態度で臨み、事実を確認し、いじめをやめさせる。 ○いじめの理由や背景を突き止め、根本的な解決を図る。 ○スクールカウンセラー、教育相談員、児童相談所、警察等、関係諸機関と連携をとる。	○学校は、いじめられた子どもを守ることを第一に考えた対応をとることを伝える。 ○事実を冷静に確認し、わが子の言い分を十分に聞くようにする。 ○被害生徒、保護者に対して適切な対応（謝罪等）をするように伝える。
	暴力を伴わない場合	いじめられた側	○本人や周辺からの聞き取りを重視し、精神的な被害についての的確に把握し、迅速に初期対応をする。 ○休み時間や登下校の際も教師による見回りを行い、被害が継続しない体制を整える。 ○いじめの理由や背景を突き止め、根本的な解決を図る。	○わが子を守り抜くという姿勢を子どもに見せるように伝える。 ○いじめの問題解決に向けた学校の方針への理解を求め協力してもらう。
		いじめた側	○いじめは「絶対に許さない」という毅然とした態度で臨み、事実を確認し、いじめをやめさせる。 ○いじめの理由や背景をつきとめ、根本的な解決を図る。 ○スクールカウンセラー、教育相談員等、関係諸機関と連携をとる。	○学校は、いじめられた生徒を守ることを第一に考えた対応をとることを伝える。 ○事実を冷静に確認し、わが子の言い分を十分に聞くように促す。 ○被害生徒、保護者に対して適切な対応（謝罪等）をするように伝える。
	行いが見えにくい場合	いじめられた側	○辛く苦しい気持ちに共感し、「いじめから全力で守ること」を約束する。 ○本人や周辺からの聞き取りを重視し、精神的なダメージについての的確に把握し、迅速に初期対応する。 ○いじめの理由や背景をつきとめ、根本的な解決を図る。	○わが子を守り抜くという姿勢を子どもに見せるように伝える。 ○いじめの問題解決に向けた学校の方針への理解を求め協力してもらう。
		いじめた側	○いじめは「絶対に許さない」という毅然とした態度で臨み、事実を確認し、いじめをやめさせる。 ○いじめの理由や背景をつきとめ、根本的な解決を図る。 ○スクールカウンセラー等と連携をとる。	○学校は、いじめられた子どもを守ることを第一に考えた対応をとることを伝える。 ○事実を冷静に確認し、わが子の言い分を十分に聞くように促す。
	周囲にいる子ども		○傍観することは、いじめに荷担することと同じであることを考えさせ、いじめられた生徒の苦しみを理解させる ○友達の言いなりにならず、自らの意志で行動することの大切さに気付かせる。	○いじめに気付いた時、傍観者とならず助ける側の態度をとることができるよう子どもに育てる。 ○いじめに対する考え方を理解してもらい、どんな場合でもいじめる側や傍観者にはなってはならないという気持ちを育てるように伝える。

2 家庭と連携した取組

○常に自分の子どもに関心をもち、子どもの寂しさやストレスに気付く。 ○子どもがいけないことをした時は、叱る。子どもが頑張った時は、褒める。 ○ＳＮＳや携帯電話、タブレット端末、パソコン等を使う場合はルールを子どもと話し合って決め、きちんと守らせる。
--

3 地域と連携した取組

○子どもたちを「地域の宝」として育てる意識をもち、子どもたちに地域から見守られているという安心感を持たせるようにする。 ○子どもたちと顔見知りになるために、子どもたちに出会った時はあいさつや声かけをお願いする。 ○公園や遊び場などで子どもが困っている場面を見かけたら、積極的に声をかけていただく。
--